研究生に著名人ズラリ〝スポーツビジネス〟の権威

平田教授

早大大学院

スポーツビジネスを学生とともに調査・研究する平田教授

競技の学生とともに「強化」「普及」「資金の獲得」「徹底的に調査・研究」

早大大学院スポーツ科学研究科の平田竹男教授（52）のゼミが注目されている。卒業生や在校生には元プロ野球選手の桑田真澄氏（43）やプロゴルファーの金子柱憲氏（50）ら各界の著名人がズラリ。学生自身で「トップスポーツビジネス」における課題に対して解決方法を究明するため、平田教授が学生一人一人と向き合って調査方法を考え、学生の研究能力を開発する形を取っている。

元日本サッカー協会専務理事

平田教授は元通産官僚であり、元日本サッカー協会専務理事。現在は東京マラソン財団理事、プロテニス協会常務理事、日本スポーツ産業学会理事長を兼務している。その経歴を生かし、さまざまな競技における「トップスポーツビジネス」の理想的な在り方を、学生とともに調査・研究し構築している。

平田教授は「学生と向き合う時にはそれぞれの〝宇宙〟の中に入っていって、一緒に勉強しているような感じです。野球、サッカー、テニス、水泳、陸上、卓球…。学生各々の立場になって考えなければならないのでとても大変ですが、その分わたし自身がスケールアップしているのは感じます」と語った。

具体的な研究課題を提示させ、その競技の「強化」「普及」「資金の獲得」の3種のミッションを、いかにして実現させるかを導き出していく。

「学生たちとは、何をテーマにするか徹底的に話し合います。なぜならば〝本人でなければならない研究〟をしてほしいからです。そこは妥協しないポイントですね。ですからみんな一生懸命に考えます。すると苦しくなる。だからわたしも一緒に苦しみます。こうして一緒に苦しみ抜くので、卒業してもわたしの頭の中には学生たちがそのまま居続けていて、すごく仲良しです」と笑った。

教え子に桑田真澄氏や金子柱憲氏

2009年（平成21年）1月29日（木曜日）　スポーツニッポン

GからWaseda へ

桑田氏 夢も壮大!! コミッショナー

早大大学院合格

「野球界発展のために力になりたい」

桑田氏の早大大学院合格を伝えた2009年1月29日付スポニチ

テニス界の研究

佐藤直子さん 杉山愛さんの母 坂井利彰氏 が学んだ

具体例としてテニスのケースを挙げてみたい。過去、平田教授の教え子に3人のテニス関係者がいた。佐藤直子日本プロテニス協会理事長（57）、杉山愛さんの母でパーム・インターナショナル・スポーツクラブ代表の芙沙子氏（62）、坂井利彰慶大テニス部監督（37）である。

3人の研究テーマは佐藤氏が「日本人テニスプレーヤー（女子）のメジャートーナメント出場機会促進に関する研究」、杉山氏は「日本の若手トップアスリートの両親の教育方針に関する一考察」、坂井氏は「男子トップテニスプレーヤーの育成モデルに関する研究―世界ランキング100位以内日本人選手の大学における育成―」だった。

平田教授はこの3研究を元に、テニス界の「強化」「普及」「資金の獲得」のトライアングルについて解説した。

トップ32に入れ

テニスプレーヤーは世界のトップ32に入ることで待遇が大きく変わってきます。多くのトーナメントでその32人がシード選手になる。そうなれば自分よりランクの高い選手とは1、2回戦では対戦しない。つまりコンスタントに上位に入ることができてポイントも賞金も稼げるわけです。したがってテニスプレーヤーはまずいかにしてトップ32に入るかを考えるべきなのです。

コート外の戦略

ここで必要になってくるのが「コート内の戦術」だけでなく「コート外の戦略」です。5年ほど前のデータですが、その頃世界ランク1000位以内に入っている日本人選手の数は、世界各国の中で4番目に多かった。ですが100位以内になると大きく順位が下がってしまう。トッププロはいるがスーパートップがいない現状と考えればいいでしょう。スーパートップになるためには、まず下部の大会でポイントを確実に稼がなければならない。ではどうやって稼がせるか？日本やアジアに下部の大会を数多く作って、日本人選手がコンディション面でも金銭面でも出場しやすく、勝ちやすくさせる。そういった大会は、地域が主催するようなわずかな賞金でもできるし、世界トップクラスの選手があまり参加しない大会でも構わないことになっている。そういった大会でも優勝すれば、世界ランクに反映されるポイントは獲得できるのです。これがコート外の戦略です。

大切なのは親子関係

プロテニスの主戦場は世界。ゴルフやサッカーと違い、国内のツアーが確立されていない。したがって若くして世界中を転戦しなければならないのです。そこで重要になってくるのが親子関係。金銭をはじめ親の負担は他の競技よりも大きくなります。特にテニスはメンタルなスポーツですから、精神的なサポートも重要。さらにコーチをつければその費用も必要になります。選手の後援者となってくれるような企業がなければ、こういった負担は親に一極集中する。子供が一流に育つためには、普通の親子関係から親も成長しなければいけないのです。

◇　◇　◇

錦織圭（22）の活躍で再び注目が集まっているテニス界。世界ランクは18位に上がりシード選手の仲間入り。錦織が10代から世界で活躍し、ケガを乗り越えて復活した陰には、杉山氏の経験に基づいたサポートがあったことは意外と知られていない。平田教授のゼミを足掛かりにテニス界の「強化」「普及」「資金の獲得」のトライアングルの循環は、確実に回り始めている。